

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和3(2021)年2月1日月曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

「忘己利他」の精神を広く伝え 延暦寺年賀式



年賀式は午前11時に開式され、森川宏映天台座主猊下を導師に法楽を厳修。続いて、水尾叔芳延暦寺執行が御祝詞

を言上した。森川座主猊下は「お言葉」で、まずはコロナ禍の昨年の状況に触れられ「世界中を席

令和3年延暦寺年賀式が1月8日、延暦寺会館瑞峰之間で行われた。例年、宗内諸大徳や山門出入方などの有縁者が多数集うが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止から規模を縮小。阿部昌宏天台宗務総長や延暦寺一山住職ら関係者のみが出席し、新年の門出を祝った。

「一隅を照らす」人が満ちる国づくりへ

巻し目に見えぬ恐怖に苛まれた一年であり、日本においても猛威を振るう事態は正に困難でありました」と回顧された。その上で「この事態に立ち向かい、新しい取り組みにも挑戦し、前向きに懸命に務めを果たしておられる人びとに想いをいたすと、心からの敬意と明るい希望を持って早期終息と人心安寧の祈りを捧げることができます」と述べられた。また、宗祖伝教大師一千二百年大遠忌の御祥当を本年に迎え「大師が身を賭して取り組まれた『志』とは、

「自他同心」で行動を

毎年発表している「比叡山から発信する言葉」として「自他同心」が水尾執行から紹介された。まず他人を思いやり、身体は近づかなくても、心と心を近づけ、相手の心になって行動しようとの願いが込められている。

水尾執行は「困難な中だが、我々は仏天と宗祖大師、祖師

この国をこの世界をみ仏の慈悲に目覚めた人々菩薩の働きによって美しく浄らかにすることでありませう」と教示。「己を忘れて他を利する」の精神を広く伝え、「一隅を照らす」人物が充ち満ちる国づくりに邁進しなければなりません。大師の鴻恩に報いるため共に努めましよう」と呼びかけられた。

来賓を代表して阿部宗務総長は「伝教大師最澄様の教えが比叡山根本中堂に掲げられている不滅の法灯とともに、動乱や変遷を経ても、今日も輝いている。今年6月の祥当法要をはじめ、様々な願いがこもった事業が、滞りなく遂行できるよう、本末一如、和合の宗団を目指して頑張りた」と新年に当たっての決意を述べた。

方のご加護を信じ、前向きに懸命に務めを果たし、人心安寧の祈りを捧げてまいらねばならない。そしてその先に明るい光明が見える、そういう一年にしたいと心から念じている」と話した。

一隅を照らす

極微

往生際が悪いといわれたのがアメリカ大統領選後のトランプ前大統領の対応だった。素直に負けを認めなかったことからだった。選挙中は激しく舌戦を繰り返して非難の応酬があつても、いざ勝敗がつけば、勝者は敗者を労り、敗者は勝者を讃えるのが常道であるという考え方からすれば、そう言われるのもわかる。潔さとか敗者の美学などに価値を認める日本の心情からだけではなく、民主主義の考え方からも領けない態度と言われた。自己の主張を声高に叫び、正当性があるかのような態度にはあきれかえるという声の一方で、反対に選挙の不正を主張する根強い支持者の声があつた▼トランプ氏といえば、明らか事実といえることでも「フエイク」と切り捨て、認めない事例があつた。我が見方のみが正しく異なった見方は認めない主義なのだろう。そうなる議論の余地もなく、意見の摺り合わせもできず、不毛な対立のみとなる▼トランプ氏の登場以降、世界の対立する様々な局面で、合意とか妥協の方向に進むことなく一段と対立が激しくなつた気がする。トランプ氏同様、各国で豪腕を誇る指導者が相次いで現れたことによるのだろう▼世界中がコロナ禍で混乱している状況下、根気よく互いの立場を尊重する政治の姿勢が必要である。互いに協力し合つて危機を乗り越えることであろう。